

# 社会医学研究レター

Vol. 5 No. 3 1997年7月

発行 社会医学研究会事務局 (愛知みずほ大学人間科学部)

一人一人の市民生活を守る役割を実践的に果たすことへの期待

愛知みずほ大学人間科学部 西 三郎

社会保障の再構築は、先進諸国共通の課題で、厳しい財政事情の下で、枠を縮める方向とそれに対する抵抗がなされている。わが国においても同様で、社会保障のあり方、内容の議論ではなく、財源をどう確保するか、効率化の名の下で規模の縮小化が審議されている。前国会で医療保険制度の改悪が成立し、近く抜本的改革に関する提言が出るようである。介護保険法案は継続審議になったが、厚生省は都道府県担当課長会議を6月25日に開催し、介護保険制度の準備に早急に取り組むことを指示している。これらの改革は、一人一人の生活に直結するもので、理念的な段階での議論も重要ではあるが、法改悪の下での新しい事態に具体的にどう対処するかが問われてきていると言えよう。

介護保険制度をみても、理論不在、経験が少ないままに介護給付の認定作業が始められようとしている。実際に、各市町村に介護認定審査会が設けられ、認定のための調査を担当する認定調査員が任命されることになっている。この委員、調査員に誰が任命されるかを高みの見物をするのではなく、自分が任命されて火中の栗を拾う勇気のある人も必要ではなかろうか。また、介護支援サービスのための介護支援専門員(ケアマネージャー)及びサービス担当者会議(ケアカンファレンス)に参加する人が決まってくる。当然、サービスにかかわる専門職は、ケアカンファレンスに参加しなければならないとはいえ、ケアマ

ネージャーの意中にその人が含まれていなければ、会議への声もかからない危険があると言えよう。少なくとも多くの専門職が積極的にケアマネージャになる資格を獲得する努力が期待されよう。

保健医療福祉の連携の重要性がいわれている中で、二木 立論文にもあるように(雑誌『病院』に連載)特定の医師が医療法人の病院等を開設すると共に社会福祉法人を設立して特別養護老人ホームその他の社会福祉施設を開設している。そこでは、保健医療福祉の連携の名の下で、自分の資本の系列下だけで在宅を含めたあらゆるサービスを効率よく提供することが可能となっている。そこでのサービスは、処遇される一人一人の生活を守るためよりは、資本の論理に基づく保健医療福祉の連携が円滑にすすめるために行われることになる。

先日、小生の勤務している愛知県渥美郡田原町に台風が上陸し、タバコ、ビニールハウス等の農業に多大な被害をもたらした。これらは、ある面では、予告されてはいても自然災害で防ぐことは困難であったと言えよう。社会保障の後退は、自然災害ではなく、われわれが生活している社会が作り出したものであり、その被害を特定の階層が被るという危険が大きいことが目に見えている。このことを防止するために努力することこそ、社会医学に携わるものの務めなのではなかろうか。

本年度の社会医学研究会総会は、社会医学からみて大きな社会変革がなされようとしている今、最もふさわしい主題「社会医学実践の再構築」設定された。この主題に沿った活発な討論を期待したい。

# 第38回社会医学研究会総会

1997年 札幌市

主 題

## 社会医学実践の再構築

日時：1997年7月26日（土）13：00から 7月27日（日）16：00まで

会場：北海道大学学術交流会館 札幌市北8条西5丁目（北大構内）

Tel：011-706-2141

いまや激動の90年代も残り少なくなり、21世紀が目前に迫っています。私たちが人々とともに取り組んできた課題の多くは新しい世紀に引き継がれていくことになりましょう。第38回社医研総会は、このような時期にふさわしく、私たちが抱えてきた諸課題を見つめ直し、これからの研究活動の展望をさらに開くような議論ができる研究会にしたいと考えています。

会員の方はもちろん、日頃、社会医学関連分野でお仕事やボランティアをされている方、労働者の健康問題や、地域の環境問題、高齢者や障害者の介護問題などの関心のある方など、広い分野の多くの方々が参加して下さることを期待しています。

第38回社会医学研究会総会・企画運営会議事務局（代表：福地保馬）

北海道大学教育学部健康体育科学講座内

060 札幌市北区北11条西7丁目 Tel & Fax 011-706-5421

## プログラム

### 特別講演 第 2 日目 (7 月 27 日・日) A 会場

---

11:00-12:00	「じん肺訴訟の意義と課題」	伊藤誠一 (弁護士・北海道石炭じん肺訴訟弁護団)
13:00-14:00	「水俣病の 40 年とこれから」	二塚 信 (熊本大・医・公衆衛生)
		座長： 福地保馬 (北大・教育・健康体育科学)

---

### シンポジウム

#### 1. 住民の立場から介護問題を考える ―公的責任に焦点をあてて―

(7 月 26 日・土) A 会場 15:00-17:30

座長： 津田光輝 (札幌学院大・人文)  
平野憲子 (札幌医大・保健医療)

1	社会的介護の確立と市町村の役割	大友信勝 (東洋大・社会学)
2	枚方市における 365 日・24 時間在宅ケアの実践をどうして	上谷好一 (枚方市生活文化部、前・福祉保健部高齢者福祉課)
3	福祉の香りのする町づくりを ―栗山からのメッセージ―	吉田義人 (北海道栗山町福祉課)
4	高齢化のすすむ過疎のまちの現状から	前田冷子 (北海道中頓別町役場・保健婦)
5	住民参加の地域福祉と街づくり	鍋谷州春 (道南勤医協・高齢者福祉函館連絡会)

#### 2. 農村社会の変貌と農民の健康

(7 月 27 日・日) A 会場 14:00-16:00

座長：新野峰久 (旭川厚生病院・健康管理)  
若葉金三 (北海道勤医協・札幌病院)

1	農業・農村社会の変貌と今後の課題	白樫 久 (岐阜大・地域科学)
2	農村社会の変貌と農民の保健活動	宮崎隆志 (北大・教育・社会教育)
3	沢内村の地域保健活動の沿革と課題	高橋和子 (岩手県沢内村)
4	「町民が健康でいきいきと安心して暮らせる町づくり」をめざして	宝田庄十郎 (北海道鷹栖町福祉課)

## 一般講演

### A会場

第1日目（7月26日・土） 13:00-15:00

番号	演題名	氏名（所属）
	要望課題（青年期の健康問題）	座長： 佐藤修二（北海道勤医協）
A11	若年女子の低体重と自覚症状	○志渡晃一、小橋 元（北大・医・公衛） 福地保馬（北大・教育・健康体育科学）
A12	高校定時制における生徒の健康問題	○神長倉知子 宇野和代（「学校」と子供の健康・発達研究会）
A13	北海道高校生2000名の喫煙習慣	松崎道幸（深川市立病院・内科）
	一般演題	座長： 宮尾 克（名大・多元数理研究科）
A14	わが国における保健医療研究の事前評価、倫理に関する実態と課題	西 三郎（愛知みずほ大・人間科学）
A15	「薬害エイズ」の二次感染被害の実態と要因	○片平冽彦（東医歯大・難研） 高階恵美子（東医歯大・保健衛生） 戸谷剛（土浦協同病院） 鈴木比有万（東医歯大・医） 牧野忠康（日本福祉大）

第2日目（7月27日・日） 9:00-11:00

番号	演題名	氏名（所属）
	一般演題（障害者の健康）	座長： 樋口治子（北海道健保連）
A21	札幌市の精神障害者共同作業所事情とC B R (Community-based Rehabilitation)の可能性 予備作業—他の政令市との比較—	○加藤春樹（北海道女子大・人間福祉） 加藤欣子（札幌医大・保健医療）
A22	障害を持つ人の主観的健康感	○羽原美奈子 大西章恵（市立名寄短大） 森本信子（北海道名寄保健所） 佐々木奈美子（国療名寄病院） 村上敦哉（名寄市社会福祉協）
	一般演題	座長： 石城赫子（北海道早来町・高齢者サービス室）
A23	高齢者の立場から見た食事サービスの現状と課題（第2報）	○真保雅子（白梅学園短大） 永島悠美子（給食ボランティア）
A24	消化器難病患者の生活支援における、保健所の役割—潰瘍性大腸炎・クローン病療養相談、患者交流会のとりくみから—	稲垣孝子（東京都江東区城東保健所） ○山本訓子（東京都江東区深川保健所）
A25	臓器移植についての若者の意識	○小橋 元、志渡晃一（北大・医・公衛） 福地保馬（北大・教育・健康体育科学）

## B会場

第1日目(7月26日・土) 13:00-15:00

番号	演題名	氏名(所属)
F1	フォーラム-1「医療・福祉・教育労働の健康問題」	座長：上畑鉄之丞(公衆衛生院) 前田典子(札幌市ひまわり整肢園)
B11	教育・医療・福祉・保育労働等の労働負担	千田忠男(同志社大・文)
B12	在宅障害児・者の介護者の健康問題に関する検討	○埴田和史 北原照代 西山勝夫(滋賀医大・予防医学) 村松大治(草津養護学校)
B13	特別養護老人ホームにおける介護職員の腰痛問題とその対策	西方規恵 ○関谷栄子 真保雅子(白梅学園短大) 吉沼孝子(早稲田福祉専) 佐野英司 長原慶子(緑陽苑)
B14	病院看護婦が日勤・深夜勤の連続勤務時にとる仮眠の実態とその効果	斉藤良夫(中央大・文・心理)
B15	保健体育科教員の労働実態と健康についての研究課題	○佐藤 晃 福地保馬(北大・教育・健康体育科学)

第2日目(7月27日・日) 9:00-11:00

番号	演題名	氏名(所属)
F2	フォーラム-2 最近の保健・医療・福祉従事者に関する問題と課題	座長：木下安子(白梅学園短大) 仁平 将(青森県五所川原保健所)
B21	保健所長は医師でなければならないか	上畑鉄之丞(国立公衆衛生院・栄養生化学)
B22	介護福祉士養成の現状と専門職養成における公的責任	西 三郎(愛知みずほ大・人間科学)
B23	在宅医療における薬剤師の業務の拡大とその課題	西 三郎(愛知みずほ大・人間科学)
B24	福祉職場に働く保健婦の労働実態と意識	○関谷栄子 佐藤希恵、村岡恵子 山本啓子 石塚和子 (東京都看護協会保健婦職能委員会)
B25	ホームヘルプ労働に関する一考察 -「登録ヘルパー」の現状分析から-	福島 知子(立命館大・社会学研究科)

第2日目(7月27日・日) 14:00-15:36

番号	演題名	氏名(所属)
	一般演題(労働と健康)	○座長：埴田和史(滋賀医大・予防医学)
B26	パソコン通じ自宅で診察	吉田雅一(京都市・吉田クリニック)
B27	振動障害療養者生活実態調査結果と治療経過についての一考察	○大竹康彦((財)宮城厚生協・産業医学健診センター)
B28	女性労働者の健康問題-健保レセプトの調査から	○山田裕一 石田雅朗 登坂由香 釣谷伊希子(金沢医大・衛生)
B29	長距離トラック運転労働と健康一同乗調査を体験して一	○川村雅則 福地保馬(北大・教育) 佐藤修二(北海道勤医協)

## 1997年度社会医学研究会総会

7月27日(日) 12:00-12:30 (A会場)

## 全国世話人会

7月26日(土) 11:00-12:00 (北大学術交流会会館 第2会議室)

## 自由集会

- 1.現代労働者の健康問題と社会医学 (7月26日,18:00-20:00,B会場)  
規制緩和/過労死問題/働くもののセンターづくりなど  
(世話人) 西山勝夫・上畑鉄之丞・福地保馬
- 2.保健所をめぐる問題 (7月26日、18:00-20:00,A会場)  
(世話人) 仁平 将

## 関連会議

- 1.労働衛生若手研究者の会 (7月27-28日,定山溪青巒荘)  
鉱山労働を見る  
(世話人) 北原照代・埴田和史
- 2.日本農村衛生学会特別研究班会議 (7月27日,16:30-18:00,北大構内)  
(世話人) 二塚 信